

第3回臨時教育研究審議会

議事概要

開催日：平成26年3月26日（水）

場 所：本部棟3階大会議室

出席者：加藤祐三学長、高田理孝副学長、福田誠治副学長、椎廣行事務局長、浅川博理事、大平栄子学長補佐、田中昌弥学長補佐、清水雅彦学長補佐、阿毛久芳大学院研究科委員長、寺川宏之初等教育学科長、牛山恵国文学科長、竹島達也英文学科長、横田力社会学科長、杉本光司地域交流研究センター長、新保祐司国際交流センター長、小林正人学生課長、重原達也総務課長

■挨拶

加藤祐三学長よりあいさつ

議 事

(1) 国文学科専任教員の昇任について（投票）

○補足説明はなく、投票の結果、信任多数により承認。
（准教授→教授）

(2) 教員配置計画について（継続審議）

○各学科より資料2-1～2-6に基づき説明、

・資料2-1 初等教育学科

「小学校英語」への対応を初等教育学科・英文学科・教職支援センターが連携して、本学独自のプログラムを開発することが望まれる。（+外国語教育研究室）

・資料2-2 国文学科

国文学科の学生の傾向として、面接に弱点があると考えている。キャリア支援センターと連携して対策を行う必要がある。

・資料2-3 英文学科

学科改善として「グローバル・キャリア・プログラム」を設置し、力のつく授業を展開する。このプログラムは、高度な英語力をバックグラウンドに、就職後即戦力となる能力や見識を持った人材の養成を目指す。また、授業外で学生の英語学習を支援するための「英会話スペース（仮称）」の創設を考えている。これは、学生が自由に参加してネイティブスピーカーとの会話を練習できるオープンスペースのことである。

→英会話スペース（仮称）については、次回の教授会にて報告を行う。

・資料2-4 社会学科

社会学科の教員数が少なく早急な人事補充が必要である。教職課程認定、大学院専修免許認定について特段の考慮が必要。英語力についても力を入れていきたいと考えている。（アドミッションポリシーにも記載）

・資料2-5 比較文化学科

英語教育関連において、比較文化学科は独自のカリキュラムを運営しているが、現状ではその運営の統括に専任が十分に関わる体制にない。

- ・資料 2-6 情報センター（教員採用および増員配置のお願い）

教員採用についても選考方法の改善が指摘され、ICT を自ら有効に「活用」する能力の高い教員が求められている。スマートフォンの普及でキーボードに慣れていない学生が増えてきているという現状もあることから、平成 28 年度から専任教員 3 名（専任 2 名+特任 1 名）で運営できるように教員採用をお願いしたい。

- ・資料無し 大学院文学研究科

教員配置については問題ない。5 専攻全てにおいて大学院生が少ないことが問題としてあげられる。。

(3) 自己点検・評価実行委員会規則の全部改正について（継続審議）

○担当より資料 3 に基づき説明、審議の結果、一部修正し承認。

- ・第 2 条第 2 項、第 7 条の各組織長を組織長に修正